

ZoneF 開催見送りのお知らせ

共生社会の実現、多文化共生、ダイバーシティの推進など、多様性が尊重される社会の実現は、我が国における一つの大きな課題となっています。多様性の尊重はマイノリティや社会的弱者といった一部の人々に関する課題としてクローズアップされがちですが、そもそも、私たちはみなそれぞれがユニークな存在であり、多様性を彩る一員です。つまり、多様性が尊重される社会とは、全ての人があるがままに生きることが大切にされる社会に他なりません。そうした意味でのインクルーシブな社会の実現には、全ての子どもがあるがままの存在として生き、育つことのできる教育の取り組みが不可欠です。この困難な課題に立ち向かうため、実践研究福井ラウンドテーブル 2021 Spring Sessions において「ZoneF インクルーシブ教育」は立ち上がりました。そして、実践研究福井ラウンドテーブル 2021 Summer Sessions 以降は、『ZoneA 学校』とのコラボレーションによって、多様な背景や困り感を持つ子どもも含めたすべての子どもが、あるがままの存在として生き、育つことのできる学校教育の在り方を探究してきました。その中で、一人ひとりの子どもに寄り添うこと、子どもの視点から学校の当たり前を問い直すことの重要性を再確認してきました。

多くの子ども達が共に学ぶ学校の中で、一人ひとりの子どもの思いを深く共有するのは容易なことではありません。しかし、一人ひとりの子どもに寄り添うためには、そして子どもの視点から学校や社会の当たり前を問い直すためには、一人ひとりの子どもの世界を知ろうとするまなざしを持つことが不可欠です。そこで、前回の実践研究福井ラウンドテーブル 2024 Spring Sessions では、ZoneF として「『個』の視点から教育を再考するー子どもと教師の接面を探るー」というテーマを掲げ、シンポジウム・フォーラムを開催しました。シンポジウムでは2名の方に話題提供をお願いし、それぞれの場で生きる個別具体的な子どもの姿を共有することを通じて、子どもの視点から学校や教育のあり方を探ってきました。いずれの話題提供においても、子どもが自己を位置づけることのできるコミュニティの存在の重要性が示され、そうした視点を踏まえながら、この間、実践研究福井ラウンドテーブル 2024 Summer Session の準備を進めてまいりました。

しかし、今回の実践研究福井ラウンドテーブル 2024 Summer Sessions は、諸般の事情により Zone ごとのセッションを全面オンラインで開催することとなりました。上述のように、ZoneF では個別具体的な子どもの姿を共有すること抜きに探究を進めることはできません。今を生きる子どもたちの具体の姿をより深く共有するためには、参加者の皆様と場を共有し、対面にてじっくり語り合うことが極めて重要であると考えております。そのため、オンラインの制約等を考慮し、今回の ZoneF の開催は見送ることいたしました。

現在、ZoneF では、来年2月に予定されている実践研究福井ラウンドテーブル 2025 Spring Sessions での対面開催に向けて準備を進めております。今回、ZoneF への参加をご検討いただいていた皆様には大変申し訳ありませんが、2月の実践研究福井ラウンドテーブル 2025 Spring Sessions へのご参加をお待ちしております。